病院図書館　2004；24(2)：41-44

特集　総会事例・研究報告会（第104回研修会）

病院医学雑誌と図書館員

重富 久代

Ⅰ．はじめに

医学関係雑誌の発行数は年々増加している。医中誌 Web を検索してみると、機関発行の雑誌もかなり多く見られる。当院の「京都市立病院紀要」もその内の一誌として収録されているが、2003年で23巻をかぞえる。

私はその紀要の創刊号より編集委員の一員として医学雑誌の編集にたずさわっており、図書館員として雑誌を作る過程で、図書室の日常業務がどんなところでいかされるか、「紀要」の紹介とともにこれまでの編集の変遷の中で考えてみたい。

Ⅱ．病院発行雑誌の種類

病院が発行する雑誌には、さまざまな出版形態があるが、単発的な調査研究報告類は別として、どんな種類があるか、当院図書室で受け入れている交換雑誌を分類してみた（図１）。内容として病院医学雑誌と紀要は総説・研究・症例報告など論文集を主に収録している。いわゆる年報といわれるものの多くは、病院事業に関わる診療概要や患者統計、職員の業績を収録しているが、論文集までひろく載せた年報も見られる。また、院内での news、essay など職員間のコミュニケーションを深めるための院内報、ホームページから Full-text を提供している医学雑誌[1]もあり、ホームページも病院広報誌の役割を担っている。

そこで病院で発行する雑誌に図書館員がどの程度関わっているか、過去５年の近畿病院図書室年次統計調査報告書の「情報発信への協力」項目より見てみた（図２）。病院図書室のほぼ四分の一が、編集にかかわっている。

業績集管理も編集支援の一つであるが、図書室がどんな種類の雑誌を発行しているか、どんな編集支援を行っているかは、もっと内容的な調査が必要となる。

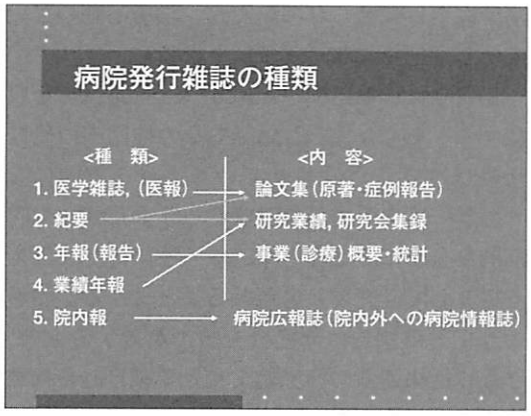

図１．

近畿病院図書室協議会会員情報発信への協力

―年次統計調査より―

年次	回答数	出版物編集支援		学術業績管理
平成７年度	88	24	27%	26%
平成９年度	95	26	27%	38%
平成10年度	101	27	26%	34%
平成11年度	88	24	27%	29%
平成13年度	71	21	30%	19%

※平成６年度までは，「図書室通信」「目録」など図書室を中心とした広報誌の集計

図２．

しげとみ　ひさよ：京都市立病院　図書室

Ⅲ.「京都市立病院紀要」編纂の歴史

1980年に発行された創刊号は、医師を中心とした学術論文集で始まった。巻頭言に「より充実した医療が展開されるように、生涯研修の自己研鑽の場として、医師のみならず医療従事者の発表の場として門戸を開くようにしたい」とあるように、次第に看護科、コ・メディカル部門も参加するようになった。研究業績集も当初、事業概要に載せられていたが、学術活動の集大成として紀要に載せることとなる。

10周年には総索引（Author & Subject）を収載する。そしてCPC記録やその他院内の研修活動はできるだけ載せていくような方向になり、年一度の看護研修発表会（学会形式）も内部的な発表にとどまらず、広くその研究を伝える場として「紀要」に載せることになる。23巻より1号は院内の研究会を広く集録するもの、2号は従来通りの研究論文集と業績目録を掲載することになった。

21巻からはCD-ROM版も作成した。また、印刷形態が活版印刷から電算写植、そしてDTP（Desk Top Publishing）に変化したことは、投稿される原稿が手書きから電子媒体に変化したこととリンクして、編集上の合理化をもたらした。

Ⅳ. 編集の流れと図書室の役割と実務のポイント

紀要の制作には、10名の編集委員が編集にあたる。図3の○印の大きさは、役割の大きさを示すもので、図書室は他の編集者、執筆者、印刷業者との連絡調整という事務的性格が強い。編集の流れをスムーズに動かす役割を担っている。また、その役割を果たすために編集の方針や投稿規程が整っていることが大切である。

当院では、「編集方針：日程や論文の採択基準等」、「投稿規程：投稿する基準」、「執筆要領：投稿規程の詳細、執筆のための基準」（図4）、「印刷仕様：製版のための基準」を作成し、紀要作成に関わる者の手引としている。これらを基準に図書室では、原稿の募集から編集支援、

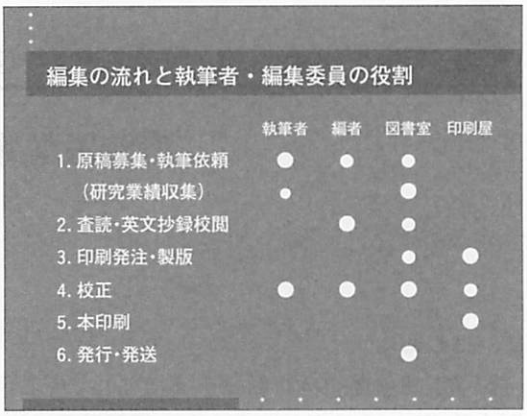

図3.

本の配送までしている。その中で気の付いた実務のポイントを次にあげる。①原稿の構成上の統一：原稿の枚数、並べ方／標題－要旨・Key word－本文－参考文献－英文要旨　②論文の内容構成の標準化[2]：原著（症例）／緒言－目的方法－結果－考察－結語（はじめに－症例－考察－結語）　③執筆上のきまり：所属の和英書き方と位置の統一、Key word、英文標題の書式、専門用語の略名のフルネーム付記、参考文献の書式、図表の説明文の位置などを明記しておくなど一定の規格化[3]を図る。内容は査読者に回るが、その前に受理した段階で図書館員がチェックするように心がけている。参考文献の書き方については、日常文献検索や相互貸借業務において書誌事項に触れているので記載漏れや書式には気が付きやすい。そんな時は

執筆要領（詳細）

目　次

1．原稿の書式と枚数
2．原稿のならべ方
3．論文の見出し語
4．所属の書き方
5．著者のローマ字表示（英文名）
6．英文標題の書式
7．抄録の書き方
8．キーワドの付け方
9．参考文献の書き方
○（雑誌記事）
○（図　書）
○（図書の一部）
○Webページ
○文献の表題
10．図表について

図4.

再度検索をして確認をしている（図5）。

著作権や倫理上の問題は、執筆者の責任の下、論文の重複掲載の確認など注意しなければならないが、医学の研究論文は、その表現、図の表出のしかたなど[4]課題は多い。編集委員会で十分注意を払わなければならない。

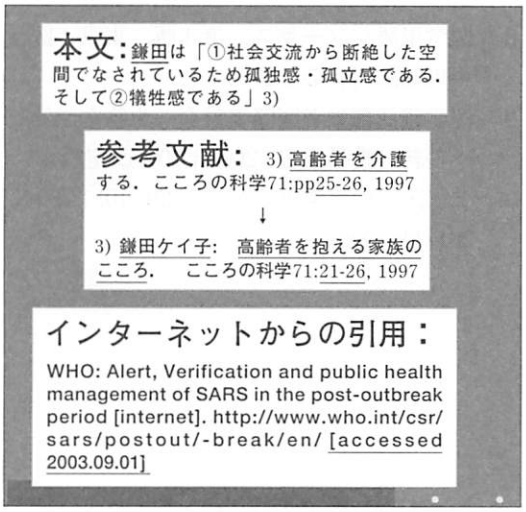

図5．

V．業績の管理と編集、その他新しい企画

業績集を収載している医学雑誌や年報の編集は、図書室が業績管理している場合、図書館員の編集業務の役割は大きい。当院では院内メールを利用して収集している。

全部門からの業績を収集するため、その様式および入力方法を規格化し、統一した記載になるように心がけている。

昨年より院内の研修記録も収載するようになった。記録様式を作成しているもののそれに入力するまでには浸透していない。

21巻より CD-ROM 版を作成しているが、その目的は保存と院内 Web での閲覧である（図6）。将来において、電子 Journal への第一歩になればと考えている。

国立国会図書館では、冊子体とは別に収集される方向にある[5]。

図6．

Ⅵ．おわりに

図書館員が作る側に立ち、創刊への企画から発行（続刊）まで行う編集支援は、図書（と雑誌）の受入から配架（製本）までの整理業務から情報提供にいたる業務において、常に色々な出版形態に出会い、書誌情報にふれていることの影響は大きい。例えば、創刊時には、ISSN 番号（International Serial Standard Number）をつける必要性と手続きを忘れないこと、投稿原稿の構文上のチェック、前述の参考文献、キーワードや略誌名の標準記載のチェックなど編集の技術的側面があげられる[6)-8)]。

Web 上で文献検索が一般的（ユーザーフレンドリー）になるにつれ、MeSH やシソーラスへの索引の機械化が進み、著者抄録の採用も多くなるなど論文の基準化がさらに押し進められる[9]。これからも雑誌の出版に関わる図書館員の役割は大きいと考える。

（近畿病院図書室協議会第104回研修会事例研究報告会/2004.03.26. に発表した）

参考文献

1）那覇市立病院．那覇市立病院医学雑誌．[引用 2004-08-17]．http://www.nch.naha.okinawa.jp/member/index.htm

2）真島英信．医学論文と図表の書き方．東京：文光堂；1984.
3）科学技術振興機構．SIST 科学技術情報流通技術基準ハンドブック．2003年版．［引用 2004-08-17］.
http://www.jst.go.jp/SIST/handbook/mokuji/index.htm
4）縣俊彦．臨床研究論文の書き方　論文スタイル　序文から謝辞．臨床医．2003；29(5)：666-72
5）湯浅俊彦．デジタル時代の出版メディアー図書館はどう変わる？．病院図書館．2002；22(1)：14-7.
6）NCBI. MeSH Database./Journals Database.
http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?db=mesh
http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?db=journals
7）医学中央雑誌刊行会．医学中央雑誌収載誌目録．2004年版．東京：医学中央雑誌刊行会
8）医学用語シソーラス．第4版．東京：医学中央雑誌刊行会；2004
9）医学雑誌編集者国際委員会．生物医学雑誌への統一投稿規定（2001年10月改定版）1，2．医学のあゆみ．2002；201(10)：790-8, 201(11)：862-7